

J-24

## 発展途上国の湖における住居の形態・建材から見た生活様式の調査研究

### その 1- ミャンマー・インレー湖を対象として

Research on lifestyle from the viewpoint of residential formation and material in the lake of developing country  
As a target of the Inle-lake, Myanmar

○楠瀬大志<sup>1</sup>, 畔柳昭雄<sup>2</sup>, 菅原遼<sup>3</sup>

\* Taishi Kusunose<sup>1</sup>, Akio Kuroyanagi<sup>2</sup>, Ryo Sugahara<sup>3</sup>

Abstract: This paper aimed to clarify the lifestyle by investigating of the residential formation and building materials as for the house of folk livings. We used two types of investigative methods. First, we observed the number of houses near the lake with "Google Earth". Second, we investigated about residential formation and building materials at two villages what are traditional village and developed village. As a result, we found that there was a difference of lifestyle by the difference of traditional village and developed village.

#### 1. はじめに

我が国では、気候の穏やかな地域においても、大量にエネルギーを消費しながら快適な暮らしを維持し続けている。しかし、このような環境負荷の大きな生活を見直し、地球温暖化などの環境問題に配慮した生活を進めていくことが今後の課題として広く認識されている。一方、ミャンマーの都市部から離れた集落では、自然材を用いた住居に暮らし、変化し続ける自然環境に合わせることで、エネルギーの消費を抑えられている。このような国における生活様式を把握することは、我が国が持続可能な生活を推進していく上で有効な資料となると考える。

そこで本稿では、ミャンマーのインレー湖を対象として、集落に居住する民族の生活様式を住居形態・建材という視点から明らかにすることを目的とする。

#### 2. 調査概要

調査方法及び調査地域の概要を Figure1 に示す。本稿では、まず、Google Earth により浮島を含めた湖上に立地する集落及び各集落における住居の分布を把握した。次に、Google Earth に記載されている写真から、住居の形態とその建材を捉えた。なお、Google Earth により確認できた住戸の集まりを集落とした。

インレー湖は、標高 870m に達するシャン高原の田園地帯に位置し、南北に走る山脈に囲まれている。また、多くの河川が流れ込み、北から南へ水流を形成している。水深は、一年を通して浅く、水草が大量に発生することが特徴として挙げられる。インレー湖の周辺にはインダー族という民族が居住しており、主とし

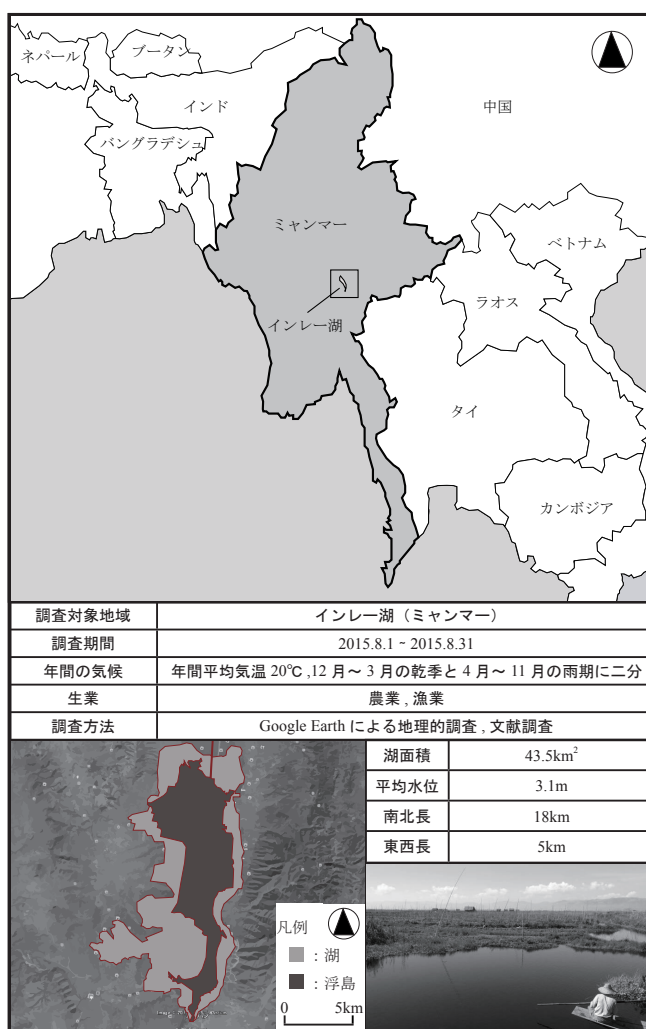


Figure1. The detail of Inle-lake and investigative method

て農業と漁業を営んでいる。また、インダー族は古来より湖上の水草を積み重ねて土地となる浮島を構築し、家屋を建て、畑を耕し生活している。一方、一部の集落では、ホテルの建設が急増し、近年、観光地化が進んでいる。

1: 日大理工・学部・海建, CST, Nihon-U. 2: 日大理工・教員・海建, Prof, CST, Nihon-U., Dr. Eng.

3: 日大理工・教員・海建, Assistant, CST, Nihon-U.

### 3. 調査結果

#### 3.1 インレー湖における集落及び浮島の分布

インレー湖における集落及び浮島の分布を Figure2 に示す。本調査の結果、全 28 集落が確認でき、住居は全 6235 戸存在することが分かった。次に、湖の南西に分布している No.13 ~ No.21 を見ると、全住戸数の約 40% が集中していることが明らかとなり、浮島が広がっている地域ほど住居が密集していると考えられる。インダー族は、生活を豊かにするために、定期的に水草を収集して私的な土地としての浮島を拡大しており、この民族にとって、水草は居住空間を形成する上で重要なものであると考える。また、文献によると、この地域は観光地としての開発が進んでいるとされている。

#### 3.2 住居形態及びその建材

インレー湖における住居形態及びその建材の分類を Table1 に示す。また、インダー族の伝統的集落と、観光地化集落における住居の内訳を Table2 に示す。Table1 では、各集落における住居形態及び建材から、住居を 3 種類に分類した。これらを比較すると、建材は様々であるが、住居形態はすべて高床式であることが分かった。高床式は水位変動に対応するだけでなく、雨期の防湿に加えて、害虫・害獣から身を守るなどの利点があり、湖上で生活する民族に適した住居形態である。これらはフィリピン・カンボジアなど、高温多湿な気候である東南アジアに多く見られる。

次に、集落別に住居の分類を見てみると、伝統的な集落においては、藁や茅、竹で作られた住居が比較的多く確認した。インレー湖周辺では、竹を採取しやすいため、多くの住居において竹材が用いられる。一方、観光地化している集落においては、豪農や豪商による木造・トタン屋根を用いた住居が多く見られた。また、竹材の住居では雨漏りの被害や火災が頻繁に発生するため、両集落において竹材から木材・トタン屋根へと移行していく傾向にあることを捉えた。

#### 4. おわりに

本稿では、インレー湖における集落の分布及びその住居の形態と建材を捉えた。その結果、伝統的な集落と観光地化が進んでいる集落によって生活様式に差異が見られた。今後は、住居内部の構成から生活様式を明らかにすることが必要だと考えられる。

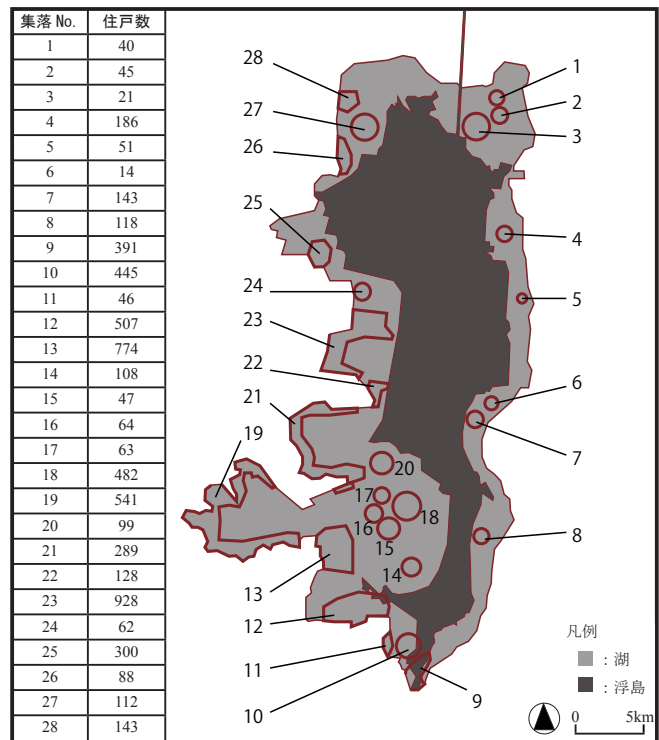


Figure2. The number of villages and homes

Table1. The residential formation and building materials

類型		A	B	C
住居形態		高床式	高床式	高床式
建材	屋根	藁, 茅類	トタン	トタン
	壁	竹, 茅類	竹, 茅類	木
	窓	藁, 茅類	藁, 茅類	ガラス
	床	木	木	木

Table2. The number of houses as for three types

類型	A	B	C
伝統的集落 (No.9)	78	25	27
観光地化集落 (No.18)	27	15	50

#### 5. 参考文献

- [1] 村上三郎：「ミャンマーの民族を異にした伝統的集落における生活環境に関する研究調査」, 日本建築学会中国支部研究報告集, Vol.24, pp.531-534, 2001 年
- [2] 田村克己ら：「ミャンマーを知るための 60 章」, pp.388, 2013 年
- [3] 奥平隆二：「ミャンマー 〈慈しみの文化と伝統〉」, pp.167, 1997 年